

子宮頸がん予防ワクチン ガーダシル®

「子宮頸がん」は子宮の入り口部分（頸部）にできるがんで、ヒトパピローマウイルス（HPV）感染によって起こります。

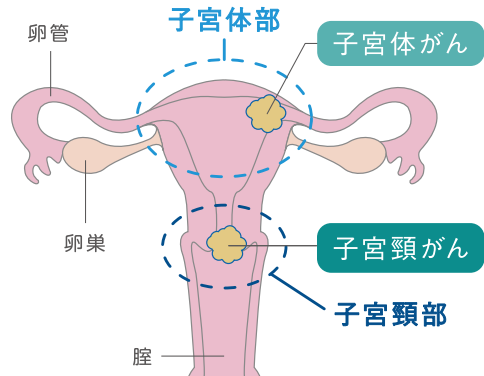
子宮に発生するがんには

子宮の奥で発生する **子宮体がん** と、

子宮の入り口で発生する **子宮頸がん** の2種類があります。

	子宮頸がん	子宮体がん
発生部位	子宮頸部（子宮の入り口）	子宮体部（胎児が育つ部分）
主な発症年齢	30～40代（20～30代で急増）	閉経後の50代以降
主な危険因子	ヒトパピローマウイルス（HPV*1）感染	エストロゲンという女性ホルモン

*1: Human Papillomavirus

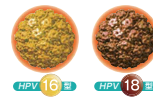


ガーダシルワクチンは子宮頸がんと尖圭コンジローマ（性感染症）の2つを予防します。

【ヒトパピローマウイルス（HPV）について】

■ HPVには100種類以上の「型」があります。そのうち感染が持続した場合に、がんへと進行していく可能性があるウイルスを「高リスク型」、感染部にイボをつくるウイルスを「低リスク型」と分類しています。「高リスク型」には15種類程度あり、その中でも子宮頸がんの原因として多い型はHPV16型、HPV18型です。子宮頸がんの原因となるHPVは女性の外陰部、膣、子宮頸部、男性の亀頭、陰のう、尿道、肛門などにも感染します。また、口腔や奥の粘膜にも感染するといわれています。HPVは会陰部や肛門などコンドームではカバーできない広い範囲に存在します。また、手や指を介して感染することもあるとされており、コンドームでの感染予防はあまり期待できません。HPV6、11型は尖圭コンジローマという陰部にイボができる病気を発症します。さらに、この尖圭コンジローマを妊娠中に母親が発症していた場合、ご生まれですが、出産時に生まれてくる赤ちゃんにもHPV6、11型が産道で感染し、のどにイボができる「再発性呼吸器乳頭腫症」という病気になります。その他にも、外陰がん、膣がん、陰茎がん、肛門がん、中咽頭がんなどの原因になることがあります。

■ 子宮頸がんを発症した日本人のうち、20代の90%、30代の75.9%はHPV16、18型が原因です。



HPV16、18型が原因の病気・がん

子宮頸がんとその前がん病変

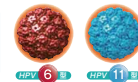
外陰上皮内腫瘍

膣上皮内腫瘍

● 外陰上皮内腫瘍は、外陰がんに行方してみられる場合がある腫瘍で、HPV感染が原因となっているのは半数程度です。
● 外陰がんは、女性性器の外陰部に発生するがんで、婦人科のがんの約3%を占めます。

● 膣上皮内腫瘍は、膣がんへ進行する可能性がある腫瘍で、HPV感染が主な原因です。
● 膣がんは、女性性器の膣にできるがんで、女性性器がんの約1%を占めます。

尖圭コンジローマ



HPV6、11型が原因の性感染症です。

ガーダシル®はHPV6、11、16、18の4つの型のヒトパピローマウイルス（HPV）による感染を防ぐワクチンです。

ガーダシル®の接種によって、HPV6、11、16、18の4つの型のウイルス感染を防ぐことができ子宮頸がんとその前がん病変、外陰上皮内腫瘍、膣上皮内腫瘍、尖圭コンジローマなどの発症を防ぐことができます。



ガーダシル®の十分な効果を得るためには、必ずガーダシル®を3回接種してください。

- ガーダシル®は初回接種（1回目）、2ヶ月後（2回目）、6ヶ月後（3回目）に、通常、腕の筋肉へ注射します。3回接種することで十分な予防効果が得られるため、3回目まできちんと接種してください。
- ガーダシル®は100%子宮頸がんを予防できるわけではありません。

接種スケジュール：初回接種、2ヶ月後、6ヶ月後



料金

1回ずつ 27,300円×3回（税込）

一括（3回分） 72,450円（税込） **-9,450円**

接種後の症状



ガーダシル®を接種した後に、注射した部位が腫れたり痛むことがあります。これは、体の中でウイルス感染を防御する仕組みが働いているために起こる症状で、通常は数日間程度で治まります。

【ガーダシル®接種による主な副反応】

頻度10%以上



注射部位の痛み・赤み・腫れ

頻度1~10%未満

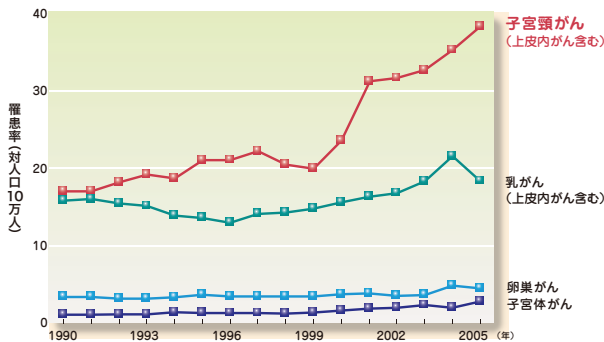


発熱・注射部位のかゆみ・出血・不快感・頭痛

20~30代の若い女性に、子宮頸がんが急増しています。

子宮頸がんは、女性特有のがんとしては乳がんに次いで罹患率が高く、特に20~30代のがんでは第1位となっています。

【子宮頸がんの罹患率の推移（日本の20~30代女性）】



国立がん研究センターがん対策情報センター
地域がん登録全国推計によるがん罹患データ（1975~2005年）より作図

接種後の注意点



接種した日の入浴は問題ありません。
ただし、体を洗うときに注射部位を強くすることは避けてください。



「子宮頸がん」は、がんがある程度進行するまでほとんど症状があらわれません。

子宮頸がんが見つかったときにはすでに病気が進行しているケースが多いため、ワクチンによる予防と、定期検診による早期発見が重要になります。

【病気が進行してからあらわれる症状】

- 性交渉のときに出血する
- 生理に関係のない出血がある
- 茶色のおりものが増える、悪臭を伴う
- 下腹部や腰が痛む

Q & A



Q ガーダシル®の接種を完了したので、もう検診は受けなくてもいいでしょうか？またこれで一生子宮頸がんや尖圭コンジローマにはなりませんか？

A ワクチンを接種したからといって、100%子宮頸がんや尖圭コンジローマを予防できるわけではありません。子宮頸がんの予防ワクチンは、子宮頸がんの原因となる高リスク型の約15種類のHPVのうち、もっとも原因となりやすいHPV16型、18型に対する免疫をつくらせるものです。ですから、16型、18型に対しては予防できますが、子宮頸がんの予防ワクチンに含まれない型のHPVウイルスに感染し、それが原因となってがんが発症することもあります。そのため、ワクチン接種後も子宮頸がんの定期検診を受けることは必要です。

Q ガーダシル®を接種した後に妊娠してしまいました。どうすればいいのでしょうか？

A 妊娠中のワクチン接種については安全性と有効性が確立していないため、避けてください。また、3回接種を完了する前に妊娠してしまった場合は、次の接種を産後まで延期してください。

Q 接種を予定した日に風邪をひいてしまいましたが、接種はできますか？

A 体調が極めてよくないとき、熱が37.5℃以上あるときは、ガーダシル®の接種はできません。医師にご相談の上、体調が回復してから接種してください。

Q インフルエンザなどのほかの予防接種を受けようと思っています。気をつける点はありますか？

A インフルエンザワクチンなど、不活化ワクチンと呼ばれる種類のワクチンを接種する場合は、ガーダシル®の接種から6日以上間隔を空けてください。また逆に、インフルエンザワクチンを接種してからガーダシル®を接種する場合も、6日以上間隔を空けてください。また、麻疹、風疹、MR、ポリオなど生ワクチンを接種した場合は27日以上空けてから接種してください。

Q ガーダシル®を接種することで、子どもができにくくなるということはないですか？

A ガーダシル®の接種によって子どもができにくくなるということは報告されていません。また不妊を誘発するような物質は含まれていません。

ご予約先 ※完全予約制です。 ※ご予約は受診されるご本人さまからのみ承っております。

【新宿本院】 Tel.03-3340-1971 (受付時間：8:30~20:00) 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー 32階 URL:<http://www.1971fujinka.jp/>

【東京院】 Tel.03-3342-1971 (受付時間：8:30~20:00) 東京都中央区日本橋 3-1-2 NTA 日本橋ビル 2階 URL:<http://www.tokyo-ladies.jp/>

【池袋院】 Tel.03-6911-1971 (受付時間：8:30~20:00) 東京都豊島区南池袋 2-27-8 南水ビル 7階 URL:<http://www.ikebukuro-fujinka.jp/>

尖圭コンジローマ (性感染症) 予防ワクチン **ガーダシル®**

尖圭コンジローマ (良性・性周病) は完治できないため、非常に広がっております。
コンジローマは出産を介して赤ちゃんにもうつり、呼吸障害の病気を稀ですが
引き起こすことがあります。
1日も早いワクチン: ガーダシル® の接種をお勧めします。

尖圭コンジローマ

尖圭コンジローマは、HPV (ヒトパピローマウイルス) 6、11型が原因の性感染症で、直径1~3ミリ前後の良性のイボが性器や肛門のまわりにできる病気です。



- 痛みやかゆみなどの症状はほとんどなく、写真のように、さまざまな形状のイボができます。大きくなるとカリフラワーやニワトリのトサカのような状態になることもあります。
- 再発しやすいといわれています。
- 一度、この病気にかかると完治することはなく一生の病気となります。
- Sexで感染します。

母子感染が原因となる、再発性呼吸器乳頭腫症 (RRP)

妊娠している女性が尖圭コンジローマを発症してしまうと、出産するときに産道で赤ちゃんにもHPVに感染してしまう可能性があります。まれですが赤ちゃんの喉などにもイボができる**再発性呼吸器乳頭腫症 (RRP)**を発症してしまうこともあります。



- この場合、声がかれたり、イボが大きくなることで呼吸困難になり、命にかかわることもあります。
- イボを取り除くため、10~20回と手術を繰り返すこともあります。

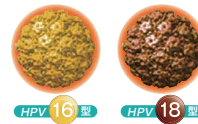
【ヒトパピローマウイルス (HPV) について】

HPVには100種類以上の「型」があります。そのうち感染が持続した場合に、がんへと進行していく可能性があるウイルスを「高リスク型」、感染部にイボをつくるウイルスを「低リスク型」と分類しています。「高リスク型」には15種類程度あり、その中でも子宮頸がんの原因として多い型はHPV16型、HPV18型です。子宮頸がんの発症に関係するHPVはがんを引き起こす高リスク型 (HPV16型、18型) であるのに対し、尖圭コンジローマに関係するHPVは良性のイボを発症する低リスク型 (HPV6型、11型など) に分類されており、種類がことなります。

【主に関係するHPV型】

- 尖圭コンジローマ..... HPV 6型 11型
- 子宮頸がん、膣がん、外陰がん..... HPV 16型 18型 など

日本では、1年間に約39,000人 (3万9千人) が発症していると考えられています。発症年齢は20~30代が最も多いと報告されています。尖圭コンジローマの治療は、くすりによる治療と、手術やレーザーによってイボを取り除く外科的な治療があり、患者さんの状態に応じて治療方針が決められます。コンジローマの大きさや場所によって違いますが、治療には数ヶ月以上かかることもあります。尖圭コンジローマは再発しやすい病気です。



HPV16、18型が原因の病気・がん

子宮頸がんとその前がん病変 <ul style="list-style-type: none">● 外陰上皮内腫瘍は、外陰がんへ先行してみられる場合がある腫瘍で、HPV感染が原因となっているのは半数程度です。● 外陰がんは、女性性器の外陰部に発生するがんで、婦人科のがんの約3%を占めます。	外陰上皮内腫瘍 <ul style="list-style-type: none">● 外陰上皮内腫瘍は、外陰がんへ先行してみられる場合がある腫瘍で、HPV感染が原因となっているのは半数程度です。● 外陰がんは、女性性器の外陰部に発生するがんで、婦人科のがんの約3%を占めます。	膣上皮内腫瘍 <ul style="list-style-type: none">● 膣上皮内腫瘍は、膣がんへ進行する可能性がある腫瘍で、HPV感染が主な原因です。● 膣がんは、女性性器の膣にできるがんで、女性性器がんの約1%を占めます。
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



尖圭コンジローマ

HPV6、11型が原因の性感染症です。

ガーダシルワクチンは子宮頸がんと尖圭コンジローマ (性感染症) の2つを予防します。

ガーダシル® はHPV6、11、16、18の4つの型のヒトパピローマウイルス (HPV) による感染を防ぐワクチンです。

ガーダシル® の接種によって、HPV6、11、16、18の4つの型のウイルス感染を防ぐことができ子宮頸がんとその前がん病変、外陰上皮内腫瘍、膣上皮内腫瘍、尖圭コンジローマなどの発症を防ぐことができます。



ガーダシル®の十分な効果を得るためには、必ずガーダシル®を3回接種してください。

ガーダシル®は初回接種（1回目）、2ヶ月後（2回目）、6ヶ月後（3回目）に、通常、腕の筋肉へ注射します。3回接種することで十分な予防効果が得られるため、3回目まできちんと接種してください。

接種スケジュール：初回接種、2ヶ月後、6ヶ月後



料金

1回ずつ 27,300円×3回（税込）

一括（3回分） 72,450円（税込） -9,450円

接種後の症状



ガーダシル®を接種した後に、注射した部位が腫れたり痛むことがあります。これは、体の中でウイルス感染を防御する仕組みが働いているために起こる症状で、通常は数日間程度で治まります。

【ガーダシル®接種による主な副反応】

頻度10%以上



注射部位の痛み・赤み・腫れ

頻度1~10%未満



発熱・注射部位のかゆみ・出血・不快感・頭痛

接種後の注意点



1 接種後は、接種部位を清潔に保ってください。

2 接種翌日までは、過度な運動を控えてください。

3 接種した日の入浴は問題ありません。ただし、体を洗うときに注射部位を強くこすことは避けてください。



Q & A

Q 必ず3回接種しないといけませんか？

A ガーダシル®は3回の接種により十分な予防効果が得られるワクチンです。必ず3回接種してください。

Q ガーダシル®を接種した後に妊娠してしまいました。どうすればいいのでしょうか？

A 3回接種を完了する前に妊娠してしまった場合は、次の接種を出産後まで延期してください。特別な処置は必要ありません。

Q ガーダシル®を接種することで、子どもができにくくなるということはないですか？

A ガーダシル®の接種によって子どもができにくくなるということは報告されていません。また不妊を誘発するような物質は含まれていません。

Q インフルエンザなどのほかの予防接種を受けようと思っています。気をつける点はありますか？

A インフルエンザワクチンなど、不活化ワクチンと呼ばれる種類のワクチンを接種する場合は、ガーダシル®の接種から6日以上間隔を空けてください。また逆に、インフルエンザワクチンを接種してからガーダシル®を接種する場合も、6日以上間隔を空けてください。また、麻疹、風疹、MR、ポリオなど生ワクチンを接種した場合は27日以上空けてから接種してください。

Q 接種を予定した日に風邪をひいてしまいましたが、接種はできますか？

A 体調が極めてよくないとき、熱が37.5℃以上あるときは、ガーダシル®の接種はできません。医師にご相談の上、体調が回復してから接種してください。

【尖圭コンジローマについて】

Q 尖圭コンジローマになると、妊娠や出産に影響はあるの？

A 妊娠している女性が尖圭コンジローマを発症すると、出産するときに産道で赤ちゃんが尖圭コンジローマのウイルス（ほとんどがHPV6型、11型）に感染してしまう可能性があります。このため、臍内にコンジローマが多発している場合や非常に大きなコンジローマでは帝王切開が必要になることがあります。生まれてきた赤ちゃんがHPVに感染した場合、ごくまれですがのどにイボができる「再発性呼吸器乳頭腫症」という病気になることがあるからです。再発性呼吸器乳頭腫症を発症してしまった赤ちゃんは、一生を通して声がかれたりイボが大きくなることで呼吸困難になり、命にかかわることもあります。イボを取り除くため、手術を繰り返すことも稀ではありません。

Q 私が尖圭コンジローマになった場合、彼も感染している可能性はあるの？

A あなたが尖圭コンジローマになった場合、パートナーもHPVに感染している可能性があります。現在、パートナーに症状が出ていなくても、ウイルスには潜伏期間があるため、ウイルスに感染している可能性はあります。

ご予約先 ※完全予約制です。 ※ご予約は受診されるご本人さまからのみ承っております。

【新宿本院】 Tel.03-3340-1971（受付時間：8:30~20:00）東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー 32階 URL.<http://www.1971fujinka.jp/>

【東京院】 Tel.03-3342-1971（受付時間：8:30~20:00）東京都中央区日本橋 3-1-2 NTA 日本橋ビル 2階 URL.<http://www.tokyo-ladies.jp/>

【池袋院】 Tel.03-6911-1971（受付時間：8:30~20:00）東京都豊島区南池袋 2-27-8 南水ビル 7階 URL.<http://www.ikebukuro-fujinka.jp/>